



你好！

世界経済における中国の存在感が増すにつれ、英国では、中国語を学ぶことの重要性が認識されてきている。英国人は、欧州では、英語以外の言語ができないことで有名であることも拍車をかけ、中国語習得で先手を打とうとしている。中国語習得ブームは学生から企業人にいたるまで幅広い。

英国では、中学終了時に全国共通のテストGCSEを受け、それがその後の進路の判定基準となる。GCSEは必須科目が設定されており他の科目は選択制であるが、中国語を選択する中学生が、急増している。

英国ではもともと外国語はGCSEの必須科目であったが、2004年9月に選択科目と変更された。そのため、外国語習得者の数は減少してきているが、そんな中、中国語習得者が急増している。

今年の夏のGCSEでは、中国語を選択する学生は約4000人にとぼると予測されている。これは、5年前と比較して50%以上の増加である。GCSEを統括する英国の教育機関母体によると、昨年中国語を選択した人は2,062名、スペイン語を選択した人は2,561名であった。このままいくと、3年以内に、中国語は、ドイツ語やスペイン語の外国語よりも多くの中学生に選択されることとなる。

イートンカレッジなどの名門校では、中国語はいまや、フランス語に続く2番目に人気の言語となっている。また他の私立校でも、中国語を必須とするカリキュラムを導入するところが増えてきた。

もともと、英国人は英語以外の言語が話せないとは、欧州では有名な話である。そのため、中学における外国語習得をGCSEの選択科目としたことに対する批判も多い。英国政府は、欧州経済圏が統合されるにつれますます、近い将来に、英語しかできないイギリス人は多言語を巧みにあやつる外国人労働者に労働市場競争で負けてしまうのではないかと懸念を抱いている。

今年、中国はイギリスを抜いて、世界第4の経済圏となった。将来的に中国とのビジネスの機会は、英国の繁栄のためにもかかせないものとなっている。

英国の産業界でも中国語習得が盛んである。中国で、もしくは中国企業とビジネスをする際、中国語を少しでも話せることは、大きな好影響をもたらすことが広く認識されている。BBCのレポートによると、英語と中国語とを流暢に話せる人が、今後、企業のトップになっていくと予測されている。

中国語習得のニーズに対応して、数々の企業対象の語学研修ツールが発売されている。オンライン上で、発音を正すことのできる中国語学習プログラムなどから、企業内で行なわれるオフラインの中国語コースなど、数多くの手法に今では簡単にアクセスすることができる。

ちなみに中国では、現在約60%の小学生が英語を学んでいるという。英国における中国語ブームの背後には、中国政府による英国政府への働きかけも大きいと見られている。

语言是人类交流的工具。